

第4回 日本医学会連合 Rising Star リトリート

実施報告書

2025 年 7 月

目次

1. 概要
2. 実施体制
3. 開催までの準備状況
4. 参加者によるレポート
5. アンケートとその結果
6. 総括
7. 会場風景（写真集）
8. 参考資料
9. リトリートプログラム（抜粋）

1. 概要

- ・ イベント名：第4回 日本医学会連合 Rising Star リトリート
- ・ テーマ：COVID からの復活 ～医学研究の挑戦～
- ・ 会期：2025年5月29日（木）～30日（金）
- ・ 会場：あいち健康の森プラザホテル
- ・ 参加者：54名（日本医学会連合基礎部会所属研究者 45名（うち、若手企画委員 6名）、臨床部会所属研究者 1名、特別講演講師 1名 シニア企画委員 5名、日本医学会連合教育・推進委員会 2名）
- ・ 学術プログラム：特別講演 1件、口頭発表 24件、ポスター発表 21件

2. 実施体制

- ・ シニア企画委員 5名
榎本篤（日本病理学会、企画委員長）、飯田薫子（日本栄養・食糧学会）、森石恆司（日本ウイルス学会）、赤羽悟美（日本生理学会）、杉田隆（日本医真菌学会）
- ・ 若手企画委員 6名
里見介史（日本病理学会）、後藤剛（日本栄養・食糧学会）、田鍬修平（日本ウイルス学会）、須田悠紀（日本生理学会）、上野圭吾（日本医真菌学会）、大原悠紀（日本病理学会）

3. 開催までの準備状況

- 3－1. これまで、2019年3月に第1回リトリート、2023年3月に第2回リトリート、2024年6月に第3回リトリートを開催し、2025年度に引き続き第4回リトリートを開催することとなった。
- 3－2. 第4回のリトリートを開催するため、第3回の3つの企画当番学会（日本生理学会、日本ウイルス学会、日本病理学会）に加えて新たに2学会（日本栄養・食糧学会、日本医真菌学会）を追加して、5学会を企画当番学会として、開催の準備に入った。
シニア企画委員：榎本篤（日本病理学会、企画委員長）、飯田薫子（日本栄養・食糧学会）、森石恆司（日本ウイルス学会）、赤羽悟美（日本生理学会）、杉田隆（日本医真菌学会）
若手企画委員：里見介史（日本病理学会）、後藤剛（日本栄養・食糧学会）、田鍬修平（日本ウイルス学会）、須田悠紀（日本生理学会）、上野圭吾（日本医真菌学会）、大原悠紀（日本病理学会）
- 3－3. 2024年10月22日に企画委員会を開催し、以下のように計画した。
- ・ イベント名：第4回 日本医学会連合 Rising Star リトリート
 - ・ テーマ：COVID からの復活 ～医学研究の挑戦～
 - ・ 会期：2025年5月29日（木）～30日（金）

- ・ 会場：あいち健康の森プラザホテル
 - ・ 参加対象
 - a) 基礎部会所属 15 学会に参加者の推薦を依頼する。
 - b) 臨床系の学会からオブザーバー参加（1 学会）は日本臨床腫瘍学会とする。
 - ・ 参加者は日本医学会連合基礎部会関連学会所属の若手研究者約 50 名（教授から大学院生まで、身分・役職は問わず、年齢は概ね 45 歳まで）。その分野の新進気鋭の研究者であることを条件とする。
 - ・ 発表はオーラル、ポスターの 2 つの形式とし、若手研究者全員が発表する。
 - ・ 特別講演は企画委員長の推薦により菅裕明先生（東京大学）に依頼する。
 - ・ 参加者が交流できる場と時間を設定する。
- 3－5．2024 年 11 月 11 日付にて基礎部会 15 学会、日本臨床腫瘍学会に対して、参加者の推薦を依頼した。期日は 12 月 13 日とした（実際は 2025 年 1 月 8 日まで最後の学会から推薦を受け付けた）。
- 3－6．抄録は、2025 年 1 月 10 日に登録を依頼し、2 月 13 日を期日とした。
- 3－7．抄録を確認し、発表形式を振り分けた。分野ごとにまとめ、より若手の研究者をオーラル発表に振り分けた。また、男女のバランスを考慮して調整した。
- 3－8．2024 年 5 月 16 日に企画委員会をオンラインで開催し、全体の運営を確認した。
- ・ 優秀発表者に対する顕彰は、オーラルについては各セッション終了後、ポスター発表については 2 日目の発表終了後に参加者の投票により、オーラル、ポスターそれぞれ上位 3 名を選出し、「日本医学会連合 Rising Star リトリート優秀賞」の賞状を授与することとした。
 - ・ 前回同様にリトリート終了後、参加者アンケートを実施することとした。
- 3－9．抄録集（参考資料）を 5 月 20 日に参加者に対して案内した。

4. 参加者によるレポート

第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本癌学会推薦

国立がん研究センター研究所 がん幹細胞研究分野

町谷 充洋

このたびは、第4回日本医学会連合Rising Starリトリートに参加させていただき、誠にありがとうございました。本リトリートでは、分野の垣根を越えて若手研究者が一堂に会し、密度の濃い2日間を過ごすことができ、非常に刺激的で学びの多い機会となりました。

本リトリートでは、さまざまな分野の若手研究者による発表を聞くことができ、自分の専門とは異なる領域におけるユニークな問いや方法論に触れることができたのは非常に刺激的でした。セッション間や懇親会では分野を越えた活発な議論が交わされ、特に発表後のディスカッションでは、通常の学会発表では得られない新鮮な視点からのフィードバックを多くいただくことができました。こうした異分野の研究者との交流は、自身の研究をより多角的に捉えるきっかけとなっただけでなく、今後の新たな協力関係やアイデアの種にもつながる貴重な機会であったと感じています。

私は「RNA依存性RNAポリメラーゼ活性を介したR-loop制御機構の解明」という演題で口頭発表の機会をいただき、ありがたいことに優秀賞を頂戴しました。特に本リトリートでは、参加者の皆様による直接投票によって優秀賞が決定されるというユニークな仕組みが採用されており、自身の研究が分野の異なる研究者の方々にも関心を持っていただけたことを大変嬉しく思っております。貴重なご評価をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

さらに、特別講演では東京大学の菅裕明先生より特別講演がありました。菅先生の研究は、基礎的なサイエンスを出発点にしながら、それをバイオベンチャーの設立や創薬応用へと発展させており、基礎と応用の間をつなぐ道筋を切り拓かれている点に強く感銘を受けました。困難な課題に挑戦し続ける姿勢に強く刺激を受け、自分の研究でも、社会実装を見据えた視点を意識して取り組んでいきたいと思いました。

今回のリトリートで得られた出会いや学びを大切に、今後の研究活動にしっかりと活かしていきたいと思えます。最後になりますが、このような貴重な場を提供してくださった関係各位に、重ねて深く御礼申し上げます。

第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本医真菌学会推薦
国立感染症研究所 真菌部
上野 圭吾

第4回 日本医学会連合 Rising Star リトリートは、口頭発表 24 題・ポスター発表 21 題・特別講演 1 題で構成され、若手研究者の交流活性化を目的として、カジュアルな合宿形式で行われました。参加者は、日本医学会連合 基礎部会に加盟する 15 の学会から推薦された先生方であり、参加者全員が発表する形式で各分野の先端研究が共有されました。演題は、臨床の課題に基づいた研究から生命の根源に迫るような研究課題まで幅広いトピックスで編成されており、基礎医学全体の研究動向・最新技術を知ることができました。今回は、日本病理学会の榎本先生・里見先生・大原先生が中心となって企画運営してくださり、参加者全員が充実した 2 日間を過ごすことができました。細部まで気配りを感じる企画で大盛況のうちにリトリートが開催されたことに心より感謝申し上げます。

今回は、初日の早い段階で自己紹介を兼ねた参加者全員のフラッシュトークが企画され、懇親会が開催される時点で参加者同士の親睦が深まっていたと感じました。さらに要旨集には、顔写真・経歴・自己アピール・メールアドレスも記載されており、研究者同士が交流しやすいよう工夫されていました。ポスターは 2 日間連続で掲示されており、両日ともに十分な交流時間が確保されていたので、研究内容についても深く議論することができました。その他、“ミッドナイト”懇親会・早朝ジョギングなどユニークな企画もあり、通常の学会では味わえない研究者交流があったように思います。

各学会では若手の会、サマーキャンプなどの企画はあると思いますが、分野外との研究者と交流する機会は必ずしも多くなく、このようなリトリートは大変貴重な機会だと思います。今後も持続可能な運営方針でこのリトリートが引き継がれていることを願っております。

第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本生理学会推薦

名古屋大学大学院 医学系研究科 統合生理学教室

大屋 愛実

この度、日本生理学会からご推薦いただき、2025 年 6 月に開催された第四回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させていただきました。このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

私は現在、生理学の研究室に所属しており、ラットやマウスを使って脳の視床下部における摂食・代謝制御機構に関する基礎研究に勤しんでおります。普段の生活では研究室のメンバーと議論することはあっても、他の研究室、特に臨床系の先生方とお話する機会はあまりありません。そのため、今回のリトリートでは、様々な分野の先生方から普段聞くことの出来ないお話を色々と伺うことができ、大変勉強になりました。日々、自分の研究に集中しているとどうしても視野が狭くなりがちですが、今回のリトリートでは他分野の研究をされている先生方から俯瞰的な視点から質問をいただく機会もあり、自分の研究について今までと違う角度から見つめ直すことができました。また、休憩時間のたわいのない会話の中で、研究者として皆が共通して抱える問題を共有して安心する場面もあり、初対面の先生方とでも気軽にお話しできる雰囲気であったのもこの会の素晴らしい点だと感じました。

今回の特別講演では東京大学の菅先生がお話しして下さったのですが、大変刺激的で時が経つのを忘れてしまうほど聞き入ってしまいました。多くの人が不可能だと思うことに果敢に取り組まれる姿勢は、全ての研究分野に共通して必要なものであると感銘を受けました。

今回大変光栄なことに優秀賞をいただくことができ、恐縮しております。妊娠 7 ヶ月の大きなお腹を抱えての参加となりましたが、多くの先生方に温かいお心遣いをいただき、終始居心地良く参加することができました。参加された先生方とお酒を飲めなかったのが唯一の心残りですが（笑）、今回繋がせていただいたご縁を今後も大切にし、また皆様と交流を持たせていただければ幸いです。

本会の今後のご繁栄を心よりお祈りしております。後輩たちにも宣伝をして私自身も少しばかりでも尽力させて頂ければと思っております。

第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本ウイルス学会推薦

筑波大学 生命環境系

浦山 俊一

ちょうど一年前、ウイルス学会のシンポジウムで発表を終えた際、面識のない先生から「リトリートへの参加を推薦してもよいでしょうか？」とお声がけいただきました。それが今回のリトリート参加のきっかけでした。その後も詳細な案内を受けることは特になく、家では「なんでもホイホイ引き受けるから仕事が進まないんだ」と妻にたしなめられながらも、「未知の場にこそ思いがけない出会いがある」と自分に言い聞かせ、参加を決めました。

正直なところ、他の参加者の発表タイトルを確認したのは出発の直前で、医学系中心の内容に自分の場違い感を抱きつつの出発でした。しかし、それはまったくの杞憂でした。会場へ向かうバスの中、「リトリートはもう始まっています！隣の方と名刺交換を！」というアナウンスで一気に車内がにぎやかになり、場の空気は一変。私の隣に座っていた方は、かつて共同研究をしていた研究者のご友人で、すぐに会話が弾みました。会場に到着すると「浦山さんですね？」とまた別の初対面の先生に声をかけられ、その方は当ラボ出身のポスドクさんの同僚とのことでした。

リトリート中も、これまでシンポジウムなどで顔を合わせる機会はあっても深く話したことのなかった方々や、共通の酵素・分子に関心を持つ研究者と議論することができました。早朝のジョギング企画では、MD のバックグラウンドを持ちながら基礎研究に携わることの葛藤をうかがうことができ、また私自身の膝の悩みについても相談に乗っていただき、病院に行く決心もつきました。

特別講演では、ペプチドドリームの菅先生のお話を伺うことができ、特に質疑応答の一言が強く印象に残っています。私の「フレキシザイムを取得するという研究の成功確率は非常に低かったのでは？」という質問に対し、「RNA ワールドがあったなら、そういうリボザイムがあったはずだと考えた」と答えられたのです。一般には無謀と思われる計画でも、深い洞察と経験から実現可能と見抜き、実際に実現する——これはある種の成功パターンではないかと、強く感じました。

帰宅後もしばらく余韻が残ったのは、ポスター発表での相互応答です。対面ならではのリアクションや議論を通じて、「次はこれに挑戦するつもりです」とか、「将来は宇宙で応用できるかも」といった、まだ自分自身でも確信しきれていないアイデアに対する反応から、自身の立ち位置や研究の方向性が少し見えてきたように思います。

全体として、普段の学会とは異なる角度からの刺激に満ちた、大変意義深いリトリートとなりました。ラボ運営や学会参加にある程度慣れてきたこのタイミングで、このような機会を得られたことに深く感謝しています。お声がけくださった先生、そして企画・運営にあたられた関係者の皆さまに、改めて心より御礼申し上げます。

第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本ウイルス学会推薦

長崎大学 熱帯医学研究所／高度感染症研究センター

櫻井 康晃

私は日本ウイルス学会の推薦により、第4回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させて頂きました。まずは、本リトリートを企画運営して頂いた先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

自分にとってリトリートという言葉はあまり馴染みが無かったのですが、辞書的な意味は「日常生活から一時的に離れて、心身のリフレッシュを目的とした休息や滞在」であり、本リトリートはまさにその通りの会でした。日々の研究を取り巻く環境や普段見聞きする研究内容から離れて、異なる様々な分野の先生方と交流し刺激し合うことで、新たなアイデアや交友関係が生まれる環境が用意されていたと思います。

様々な先生方のご発表を聞き、議論を重ねることで、良い意味で刺激を受けました。実際に共同研究をしてみたいと感じた先生も数名おられ、そのほとんどが他分野の先生方です。昨今は異分野融合が推奨されていますが、他分野の先生と一緒に研究をすることは研究に広がりを持たせることが出来、本会はその好機を作ってくれていたと感じています。また、東京大学の菅裕明教授による特別講演では、大変貴重で刺激的なお話を聞けました。ご研究の内容はもとより、若手研究者へのメッセージもご紹介頂き、「異端は認められた瞬間に先端になる」というお言葉は大変印象的でした。

本会は、人と人との繋がりを感じる機会でもありました。元々顔見知りの先生は数名しかいなかったのですが、様々な先生方と話してみると驚くほど多くの繋がりが見つかりました。友人（研究者）の同期や先輩、友人の共同研究者、共同研究者の共同研究者、大学院生時代の研究室に以前出入りされていた先生。様々な分野・所属学会にまたがっていたのですが、世界は色々なところで繋がっていると感じました。それと同時に、こういった先生方とお酒を交わしながら色々な話をしていると、自分が学生の頃に帰った気分にもなり、大変楽しい時間を過ごす事が出来ました。

本リトリートは、若手や中堅の研究者にとって大変有意義な会かと思います。ぜひ今後も続けていって頂けると嬉しく思いますし、それによって様々な異分野間交流や共同研究が生まれることを願っています。私が長崎大学に赴任した当初より準備に携わり、待ち望んでいた感染症研究施設（バイオセーフティーレベル4施設）が、今年誕生しました。この施設は、私達が様々な分野の先生方とも協力し合うことで、初めて最大限に機能が発揮されるものと思っています。同じ年に本リトリートに参加出来たことは偶然かもしれませんが、そこに何か運命的なものも感じずにはられません。

第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本骨代謝学会推薦
慶應義塾大学医学部 整形外科
伊賀 隆史

このたび、日本骨代謝学会のご推薦をいただき、「第4回日本医学会連合Rising Starリトリート」に参加させていただく貴重な機会を頂戴しました。2日間、非日常の環境の中で、全国から集まった気鋭の若手研究者とともに、サイエンスと真剣に向き合う濃密な時間を過ごすことができました。

参加前は「リトリート」という言葉に若干の距離を感じていましたが、いざ現地に入ってみると、その名の通り、日常から一步離れた“内省と対話の場”が用意されていました。プログラムは朝から晩までぎっしり詰まっており、セッションはもちろん、食事中や懇親会の時間に至るまで、研究について語り続ける二日間となりました。

特に印象的だったのは、自分とはまったく異なるバックグラウンドを持つ研究者との対話です。ウイルス、真菌、免疫など、普段あまり交わることのない分野の最前線で活躍されている方々の話を聞く中で、共通する科学的探究心や、視点の違いから生まれる新たな発見の可能性を強く感じました。異分野の研究の「勢い」と「創造性」に圧倒される場面もあり、自分の中にある固定観念を揺さぶられるような刺激を多く受けました。

2日目の朝には、有志による6:30からのランニングにも参加しました。早朝の空気の中、普段話せない方々と走りながら会話を交わすことで、心身ともにリフレッシュされ、まさにリトリートの精神を体感するひとときとなりました。

セッションでは、研究の背景や意義、そしてその波及効果をいかに伝えるかというプレゼン力の重要性を改めて実感しました。短い時間で自分の研究の核を他分野の方にも伝えるという経験は、今後の学会発表や教育活動にも活かせる貴重なトレーニングになったと感じています。

このような貴重な機会を企画・運営してくださった日本医学会連合の先生方、そして推薦してくださった日本骨代謝学会の皆様に、心より感謝申し上げます。とても刺激的で実りある会であり、正直なところ毎年でも参加したいと思える素晴らしい体験でした。今後は、若い後輩たちにもこの会の存在をぜひ伝え、チャレンジしてほしいと強く思っています。

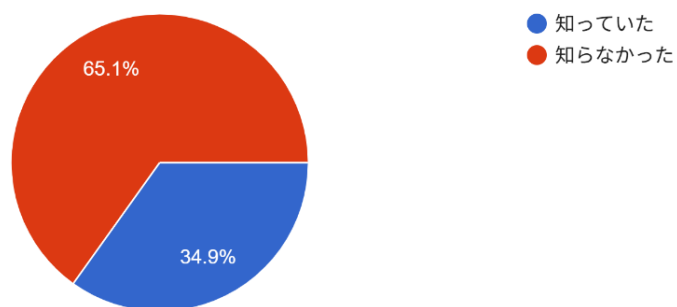
5. 参加者アンケート結果

第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート アンケート

回答：43 名

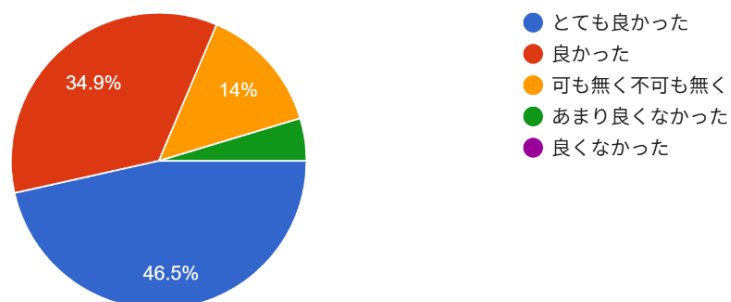
Q1: 今回のリトリートに参加する以前に、リトリートについてご存知でしたか？

43 件の回答



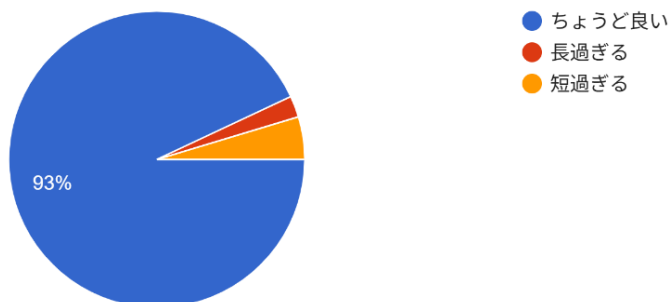
Q2: 5月下旬の開催について

43 件の回答



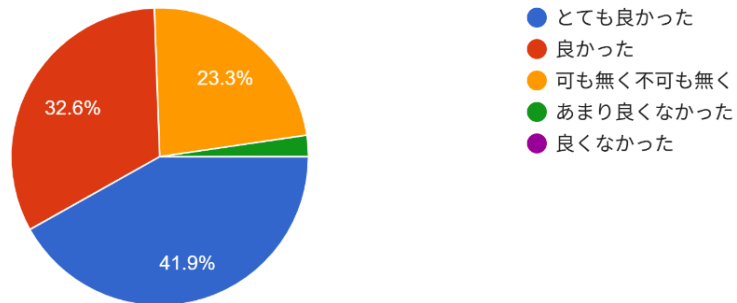
Q3: 開催期間（1泊2日）について

43 件の回答



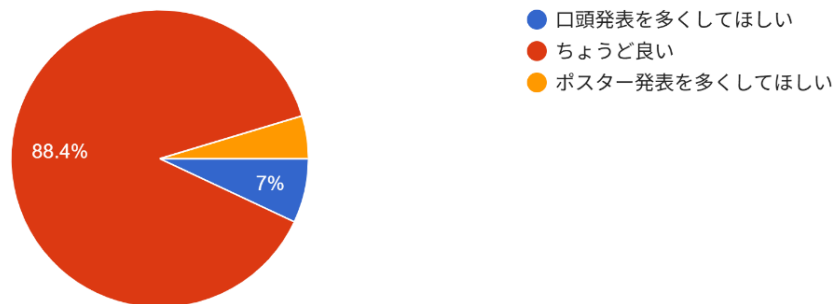
Q4: 開催場所（愛知）について

43 件の回答



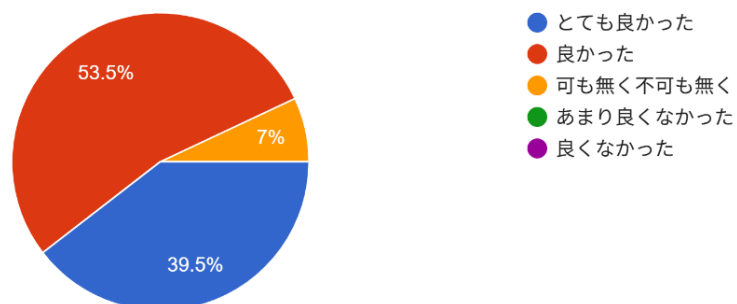
Q5: 口頭発表とポスター発表の演題数のバランスについて

43 件の回答



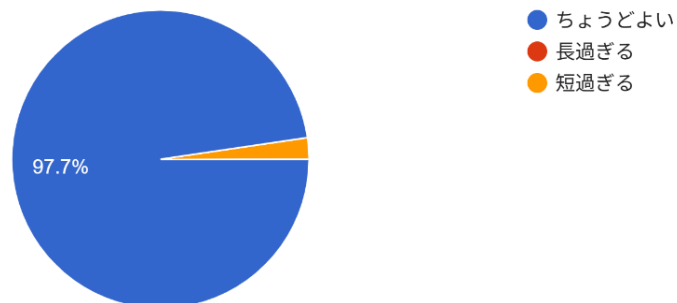
Q6: 口頭発表のセッション分けについて

43 件の回答



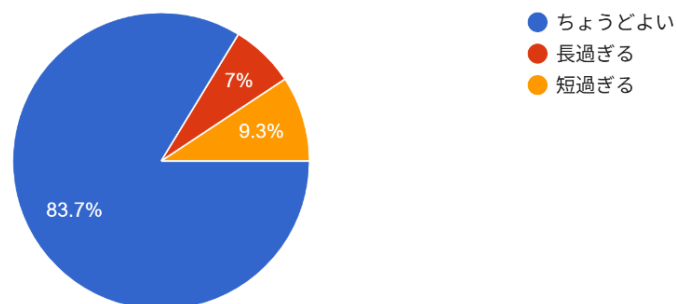
Q7: 口頭発表の時間について

43 件の回答



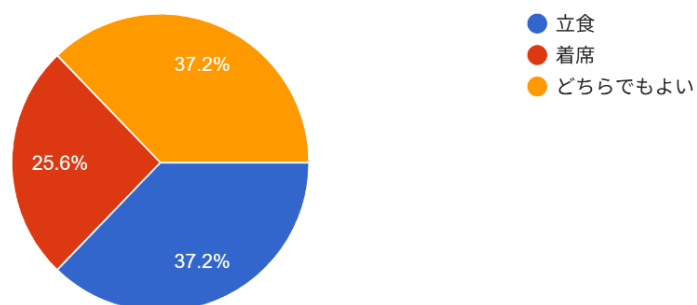
Q8: ポスター発表の時間について

43 件の回答



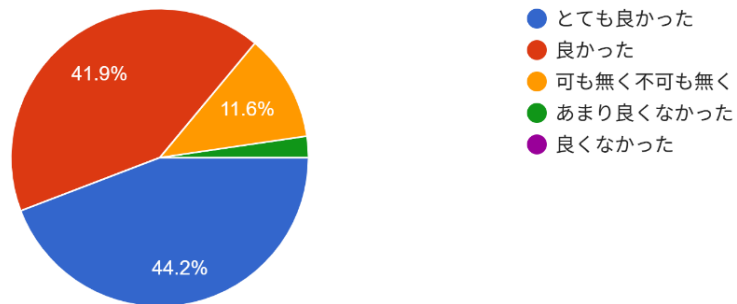
Q9: 食事の形式は、立食・着席のどちらがリトリートに適すると思いますか？

43 件の回答



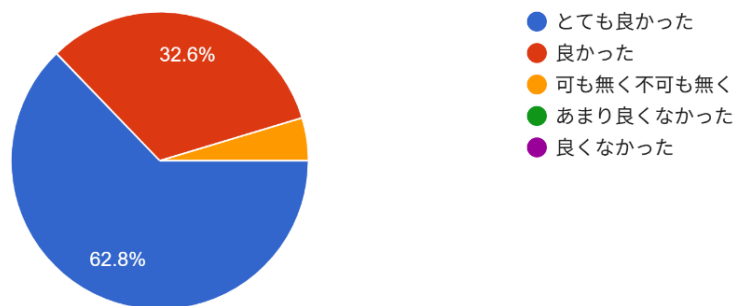
Q10: 懇親会の内容や時間、お酒の量などはいかがでしたか？

43 件の回答



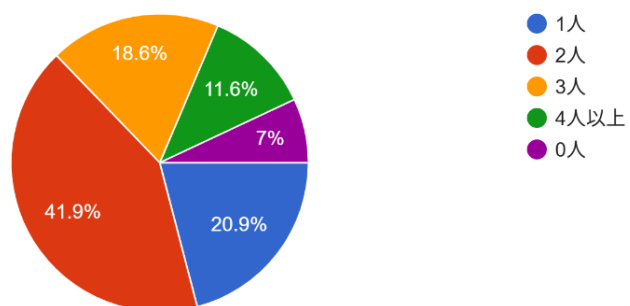
Q11: 異分野交流について

43 件の回答



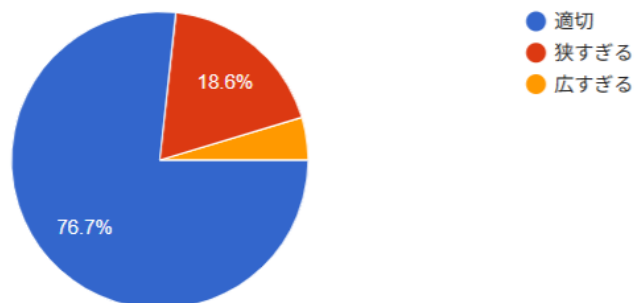
Q12: 所属学会以外の参加者で共同研究をしてみたいと思った参加者の人数は？

43 件の回答



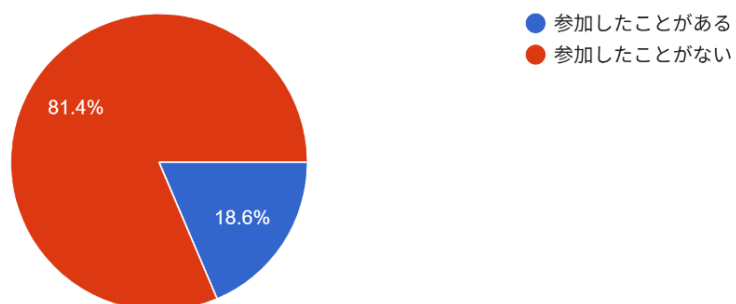
Q13: 今回のリトリートは医学会連合の基礎系の学会と臨床系1学会のみの参加でしたが、異分野交流を行う範囲としてこれが適切でしょうか？

43 件の回答



Q14: 類似の異分野交流リトリートについて

43 件の回答



Q15: 特別講演の招待演者のご希望をご回答ください

- ・ 上田泰己先生、安田涼平先生
- ・ 森和俊先生
- ・ Elly Tanaka 先生
- ・ 岡田随象先生

Q16: 特別講演以外にこのリトリートで実施してほしい企画等あればご記入ください

- ・ 工学系、AI 関連などの充実があればありがたいです。
- ・ 特徴的な解析技術を持った先生方に、その手法を解説していただくような形も面白いのではないかと思います（今回は AI 関係が多かったですが、イメージング技術やその分野では流行りの手法など）。
- ・ ランダムな数人でのフリーディスカッションタイム
- ・ グループワーク的な企画
- ・ ワークショップなど知り合いになる機会を増やしてほしい。フラッシュトークも狙いもよく理解でき、それはそれで価値があるが、その時間を違う形で参加者どうしが交流できるイベントになるとよいかもしれないと思いました。ポスターはある程度すべてを回るように配慮あるとよいかもしれないと思いました。自分も当初まったく興味がないポスターは見ることさえ考えていませんでした（ほかのところでディスカッションをしていこうとしていた）が、今回ひょんなことから読むことになり、そこからむしろ非常に有益な情報を感じました。ポスター発表も順繰り聞いてまわれるように工夫があると良いかもです。初日はそうして、2 日目をフリーディスカッションにするなど
- ・ ちょっとしたレクリエーションがあっても良いかもしれません。
- ・ 時間的に難しいとは思いますが、班分け等して、異分野の方と強制的に知り合うような企画があれば、より交流できるかと思いました。

6. 総括

今回のリトリートを無事に終えることができ、大変ほっとしております。日本医学会連合の門脇先生、本間先生、高橋先生のご指導のもと、また各学会の企画委員の先生方、および医学会連合の事務局の方々に厚く御礼申し上げます。本リトリートの目的はおそらく異分野交流、異分野協同の機会を作ることであり、今回の参加者の方々のアンケートのご回答を拝見する限り、ある程度その目的は達せられたのではないかと思います。口頭発表の質疑応答のレベルやポスターディスカッションの盛り上がりを拝見し、やはり各学会を代表する若手・中堅の研究者の方々だな、さすがだな、と感心せざるを得ませんでした。すべてご参加の方々のおかげであり、ここに御礼申し上げます。

今回は、初日に全員フラッシュトークという無謀とも思える試みをさせていただきました。初日の食事や懇親会の前にみなさんのそれぞれの研究内容がわかるように、と思って企画したのですが、一方で、スケジュールを圧迫するものである可能性も承知しておりました。しかしながら、企画委員の里見先生、大原先生（ともに日本病理学会）のすばらしいハンドリング、そして参加者の方々の素晴らしいご協力のおかげで無事完遂できましたこと、非常に嬉しく思っております。早朝のジョギング企画も成功しました。里見先生をはじめ、関係の方々、ありがとうございました。

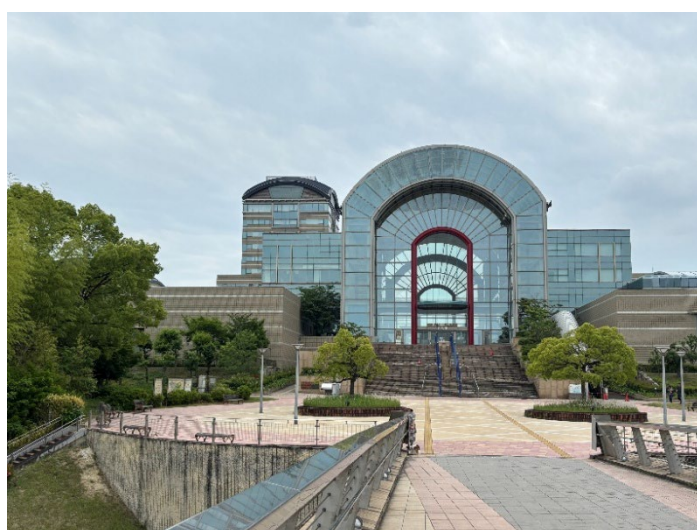
菅裕明先生の特別講演は相当なインパクトを参加者の方々がお受けになられたようです。異端は認められた瞬間に先端に変わる、先端的な研究を追ってはいけない、というお言葉は胸に突き刺さるような刺激を受けました。菅先生は夜遅くの和室での懇親会までご参加いただきました。ご参加の皆さん、いろんなメッセージを菅先生のご講演、お話から感じ取られたのではないかと想像しております。菅先生には最初のご依頼メールを差し上げた時から非常に真摯なご対応を頂きました。御礼申し上げます。

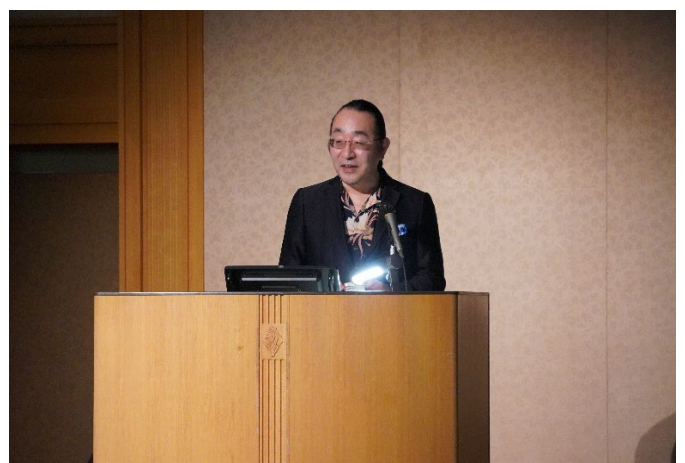
私自身は本リトリートに参加するのは3回目で、1回目の時にできた友人とは今でも学会などでお会いすると食事をする仲です。2回目の時に知り合いになった方とは共同研究が一件動いております。今回ご参加いただいた方々にとりまして、本リトリートが少しでも有益なものとなれば企画側としては幸甚の至りです。今後、本リトリートが発展し、日本の基礎研究発展の基盤になることを心よりお祈りいたしたいと存じます。

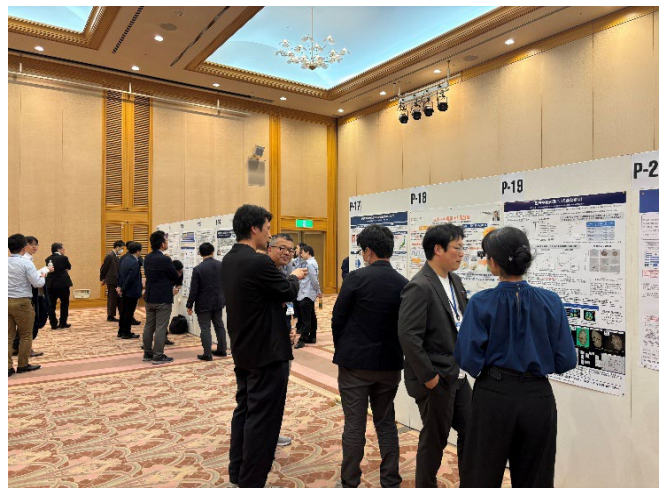
第4回日本医学会連合 Rising Star リトリート

企画委員長 榎本 篤

7. 会場風景（写真集）



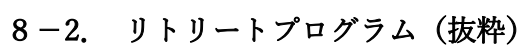








8-1. 会場図



プログラム 5月29日(木)

13:30-13:40 / 開会式 : プラザホール
開会挨拶 日本疫学会連合 会長 門脇 幸 (ヒザオ)
開会挨拶 日本疫学会連合 教育・研究推進委員会委員長・事務執行理事 本間さと
プログラム案内 第4回Rising Starリトリート企画委員会委員長 榎本 寛

13:40-13:46 / Flash Talk (オーラル) 兼コーヒーブレイク

14:10-15:30 / オーラルⅠ Altair『分子生物学・細胞生物学』 座長：後藤 剛

01-1	細胞分裂を駆動する中心体の新たな機能の発見
01-2	RNA依存性RNAポリメラーゼ活性を介したP-loop制御機構の解明
14-26	町谷 亮洋 (国立がん研究センター 研究所 がん幹細胞研究分野/日本癌学会)
01-3	SFT5ウイルス生活環における蛋白質質管理機構の意義
14-42	田縣 修平 (大阪大学感染症総合教育研究施設ウイルス制御学G/日本ウイルス学会)
01-4	光合成細菌で糖を明かす細胞素分子シグナル伝達機構
14-58	清水 隆之 (奈良女子大学 研究院自然科学系/日本生化学会)
01-5	ピタミノンシグナル制御因子の網羅的網定
15-14	杉本幸太郎 (林研医科大学薬理学第二講座/日本薬理学会)

15:30-15:40 / 優秀賞投票 / ブレイク

15:40-16:44 / オーラルⅡ Regulus『免疫学』 座長：田縣修平

02-1	真核細胞に対する脂溶性性記憶細胞を介した感染防御機構
15-40	上野 圭吾 (国立感染症研究所 真菌部/日本疫学会)
02-2	希少な免疫細胞である好塩基球は急性呼吸器症候群 (ARDS) の炎症収束に重要である
15-56	三宅 健介 (東京科学大学 総合研究院/日本疫学会)
02-3	Luciferase immunoprecipitation systems: UPSを利用した新規自己免疫疾患の探索
16-12	伊東 伸朗 (慶応大学医学系研究科 難治性骨髄性急性白血病研究/日本骨代謝学会)
02-4	免疫抑制剤抗体PD-1による遺伝子選択的・細胞選択的抑制機構の解明
16-28	清水 謙次 (東京大学 基礎生命科学研究所 分子免疫学研究分野/日本疫学会)

16:44-16:46 / 優秀賞投票

16:45-17:45 / 特別講演 座長：榎本 寛

21	菅 裕明 (東京大学 大学院医学系研究科 生物有機化学)
Pseudo-natural peptides and neobiologics for therapeutic innovation	

17:45-18:15 / 集合写真・discussion networking

18:15-18:40 / Flash Talk (ポスター)

18:40-19:00 / チェックイン

19:00-20:00 / 夕食 (諸席式) : 食堂

20:00-21:00 / ポスターdiscussion＋懇親会：プラザホール

21:00-22:00 / 懇親会：和室

解散

プログラム 5月30日(金)

有志ジョギング

7:00-9:00 / 朝食

9:00-10:20 / オーラルⅢ Deneb『がん・AI』 座長：大塚雄記

03-1	Adipo-oncogenes病理形態研究に基づく腫瘍微小環境における脂肪細胞を介したがん制御機構の解明
9-90	佐藤 慎哉 (神奈川県立がんセンター 腫瘍研究所 形態情報解析系/日本癌理学会)
03-2	センナ代謝の破綻が肝細胞がんのフェローション特性に与える影響
9-16	有澤 琴子 (東北大学大学院薬学研究科 附属医薬品開発研究センター/日本疫学・食糧学会)
03-3	橋 (やまい) の道 (ことわり) を知る——病理診断は基礎研究の出口となり得るのか——
9-32	里見 介史 (杏林大学医学部病理学教室/日本癌理学会)
03-4	脳疾患の知覚から着目する人工知能の研究開発
9-48	小林 和馬 (国立がん研究センター 研究所/国立情報科学研究所/日本疫学会)
03-5	眼表炎症性疾患のゲノム解析とリキッドバイオプシー
10-94	秋山 雅人 (九州大学大学院医学研究科細胞イメージング講座/日本人眼連合学会)

10:20-10:30 / 優秀賞投票 / ブレイク

10:30-11:50 / オーラルⅣ Spica『神経科学・生理学・代謝』 座長：須田隆記

04-1	体感温度経時経回を指標とした体温の新たな制御機構
10-30	竹田 育子 (名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞学/日本癌理学会)
04-2	脂肪細胞結合タンパク質 (FABP) と神経変性疾患：レビ-小体病からCOVID 感染症まで
10-46	川畑伊知郎 (福島県立医科大学医学部 附属生体情報工学研究所/日本疫学会)
04-3	中年太りのメカニズム—視床下部—視床下部—一次線毛の加齢性変容—
11-92	大庭 愛美 (名古屋大学大学院医学系研究科/日本生化学会)
04-4	糖子に存在する生体電圧信号の新たな認知機構：電気依存性ホスファターゼ
11-18	河合 喬文 (大阪大学大学院 医学系研究科/日本生化学会)
04-5	増強脂肪細胞のシーム・エピタリウム移行から生活習慣病の精密医療へ向けた展望
11-34	平地 勇雄 (東京大学大学院医学系研究科 先端代謝病研究講座/日本生化学会)

11:50-13:00 / 優秀賞投票 / 昼食

13:00-14:20 / オーラルⅤ Antares『感染症』 座長：上野圭吾

05-1	ファージ療法：細菌を捕すウイルスを利用した抗感染療法
13-90	氣賀恒太郎 (国立感染症研究所/日本疫学会)
05-2	北海道十勝地方における吸血虫アブ類の発生状況と制御法開発
13-16	菅沼 啓輔 (南広島大学グローバルアグリメディシン研究センター/産学共同研究センター/日本疫学会)
05-3	機動液状化細菌加水分解酵素を用いた重層多層の構造プロファイリング
13-32	山中 大輔 (東京薬科大学 薬学部/日本疫学会)
05-4	新しい免疫反応測定法「ToASAS法」によるSARS-CoV-2ワクチンの評価
13-48	船越 洋平 (神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 腫瘍・血液内科学分野/日本臨床腫瘍学会)
05-5	mRNAワクチンによる「細胞活性化」機構の解明
14-94	室 龍之介 (東京理科大学 生命医科学研究所/日本疫学会)

14:20-14:25 / 優秀賞投票

14:25-15:25 / ポスターdiscussion

15:25-15:35 / 優秀賞投票・集計

15:35-15:45 / 表彰式および閉会式

閉会挨拶 担当副会長：高橋 英

解散

16:00 / 専用バス出航(あいち健康の森プラザホテル大府駅)

16:15 / 専用バス大府駅着

ポスターセッション

P-1	Shno1 は Yeast4 の発現制御を介した DNA 修繕によりゲノム安定化する 井原 大(奈良医科大学 解剖学講座/日本解剖学会)
P-2	ヒト大腸皮質におけるカンナビノイド受容体の発現とそのシナプスの調節 堀江 沙和(防衛医科大学校 解剖学講座/日本解剖学会)
P-3	柔軟な判断を支える感覚-判断視野間の機能結合ダイナミクス 須田 悠紀(山梨大学医学部生理学講座統合生理学/日本生理学会)
P-4	GIRK チャネルのイオン選択性のしくみ及び薬物による活性制御機構の解明 陳 以璿(松山県立医科大学医学部基礎医学講座/日本生理学会)
P-5	全身性体液保持機構の解明：カラダの水分制御法の創出を目指して 北田 研人(徳川大学医学部 薬理学/日本薬理学会)
P-6	腫瘍の進行における代謝酵素の機能解析 大島 健吾(兵庫県医科大学 医学部 病理学 分子病理部門/日本病理学会)
P-7	エピゲノム制御破綻に起因する腫瘍内不均一性創出機構の解析 宮田 憲一(公益財団法人がん研究基金 がんエピゲノム研究所/日本癌学会)
P-8	マラリア原虫の寄生調節: 柔軟なエネルギー代謝制御 佐倉 孝哉(体幹大学動物医学研究所 感染生物学 基礎生物学 基礎生物学 SHONOGL グローバル感染症連携部門分子感染ダイナミクス解析分野 基礎生物学大学院動物医学・グローバルヘルス研究所/日本寄生病学会)
P-9	マラリア原虫のステージ形成を誘導する遺伝子転写制御機構 西 翔(大阪大学寄生病学研究所 分子生物学分野/日本寄生病学会)
P-10	メハロン酸合成経路による脂肪細胞機能制御機構に関する研究 後藤 剛(京都大学 大学院農学研究科/日本栄養・食糧学会)

ポスターセッション

P-11	腸の発生における必須脂肪酸の役割 酒寄 信幸(広島大学 大学院 薬系科学研究科 口腔生理学研究室/日本栄養・食糧学会)
P-12	RNA レプリコンを探しに温泉へ —第 3 RNA ウィルス系統と未知のウィロイド様環状 RNA の発見— 浦山 俊一(筑波大学生命環境科学/日本ウイルス学会)
P-13	動物由来ウィルスのリスク評価に向けたウィルスゲノム疫学研究 川崎 純真(千葉大学大学院医学研究科 感染症学/日本ウイルス学会)
P-14	クリミア・コンゴ出血熱ウィルスの細胞侵入機構の解析と侵入阻害剤の開発 櫻井 康晃(福岡大学 動物医学研究科/高度感染症研究センター/日本ウイルス学会)
P-15	COVID-19 関連肺アスペルギルス症の疫学調査 高岡 貴弘(福岡大学大学院 医療系学総合研究科 臨床感染症学/日本医真菌学会)
P-16	糸状菌分生子の休眠打破の分子機構の解析 宮澤 泰(国立感染症研究所 真菌部/日本医真菌学会)
P-17	筋萎縮性側索硬化症の遺伝的機序の解明に向けて 中村 亮一(愛知医科大学 内科学講座 (神経内科) /日本人筋遺伝学会)
P-18	日本人の遺伝子と尿酸値 中山 昌喜(防衛医科大学校 防衛医学研究センター/日本人筋遺伝学会)
P-19	動物神経学による病態解明 松原 知康(広島大学病院 脳神経内科/日本神経病理学会)
P-20	NCNP ブレインバンクプロジェクトの現状と展望 八木田 薫(国立精神・神経医療研究センター 病院 脳神経外科/日本神経病理学会)
P-21	Angio-osteo coupling による骨治療のメカニズムの探求 伊賀 隆史(慶應義塾大学医学部整形外科/日本骨代謝学会)